

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

<県南会場>

科目 ⑭安全対策・緊急時対応

- ◆ 今回の講義を通して災害や事故、ケガなどはいつ起きるかわからないので、安全対策、緊急時対応をしっかりと行わなければならないと改めて感じた。マニュアル、業務持続計画、安全計画を立案し手元に置いてはいるが、職員全員で共有できていないので、いざと言うときに慌てず行動できるようしっかり頭に入れ、職員で確認する機会をもちたいと感じた。最後の「子どもたちを大切にするためにあなた自身も大切にしてください」という言葉が印象に残った。
- ◆ 子どもの生活の場として安全対策について熟知しておくことは必須だと感じた。小さな不安要素から重大事故に繋がらないよう、小さな不安要素を見逃さないようにしたい。学童内でのヒヤリハットは、支援員はもちろん見逃さないことが大切だが、子どもたち自身も気を付けられるような習慣付けも必要であると思う。日頃からの声掛けや、危ない状況を注意する際はどのようにして危ないのか、子どもに考えさせるように促したい。
- ◆ 子どもの命を守るための安全対策や緊急時対応について学びました。事故や怪我を防ぐためには日常の観察が重要であり、危険を予測する力や防止策を考える姿勢が求められると感じました。グループ討議でヒヤリハットを共有する大切さや、ハインリッヒの法則に基づく小さな気付きの積み重ねの必要性も学びました。また、不審者侵入時や帰宅時の安全確保、保護者への正確な連絡方法など、現場で役立つ知識を具体的に得ることができました。
- ◆ 日常生活の中で「事故は日常の中にある」ということを念頭において、子どもたちと向き合っていかなければならないということを学びました。誰かがやってくれるだろうという暗黙の了解は油断であり事故に繋がりがねない。ハインリッヒの法則を心に留め、三つの眼（鳥の眼、虫の眼、仲間の眼）をもって安全管理していくことが大切だと痛感しました。また、ヒヤリハット作成も事故防止に効果的であり必要な書類だと思いました。
- ◆ 本科目を通じ、学童保育で起こりやすい事故の種類と原因を具体的に理解しました。日頃から危険予知を行い、事故を未然に防ぐための環境整備が必要であると認識しました。グループワークでは、他の職員と意見交換することで新たな視点を得ることができ、とても参考になりました。ヒヤリハット事例を共有し、具体的な対策を検討することで、リスクに対する意識が今まで以上に高まりました。これからの支援に活かしていきたいと思っています。